

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
2. 体験した事例の名称	交通事故により、電柱のハンドが垂れ下がり消防車と接触する。
3. 体験した事例の中心的要素	事故車両の停止現場から距離があり、又垂れ下り現場が、交差点を挟み事故車両の見えない場所であったため、事故現場に到着したとの認識も薄く、ハンドの垂れ下りの予測が困難であった。 又明け方で、暗闇から付近が少し明るくなった状況で、出動車両のヘッドライトの明かりでは電線を視認するのが難しい状況であった。
4. 体験した事例の原因・理由	事故現場が確認できなくても、現場に近づいたら最徐行し、あらゆる危険を考え活動するべきであった。

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

.....

1. 発生日時	平成 20 年 4 月 24 日 午前 5 時頃
2. 発生した当時の天候	雨
3. 発生した活動現場	屋内：道路
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	交通事故
7. 事例体験時の活動	救急、現場到着 []
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：消防車両での支援出動の現場到着直前 その他：現場到着前
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに 1, 2 回程度体験している。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[51]歳、 勤続年数[33]年、 現場経験年数[33] 年、 階級[消防司令]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[51]歳、 勤続年数[33]年、 現場経験年数[33]年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[32]歳、 勤続年数[14]年、 現場経験年数[14]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	A	指令現場と事故現場が異なっている事を通信より無線で確認する。	
経過 2	A	機関員 (B) に新たな現場を指示する。	
経過 3	B	車両長 (A) の指示により、事故現場に向かう。	
経過 4	A	現場に近づいたが、現場の確認ができないため、機関員 (B) に徐行の指示をする。	
経過 5	B	車両長 (A) の指示により、徐行しながら現場を探す	
経過 6	A	異音等の異常を感じた為すぐ「止まれ」と指示する。	
経過 7	B	車両長 (A) の指示及び異常を感じた為すぐ停車する。	
経過 8	A・C	すぐ降車し確認した所、ハンドが垂れていたため、機関員 (B) に指示し車両をバックさせる。	
経過 9	B・C	車両長 (A) の指示により車両を後退させる。	
経過 10	A・B・C	車両、電線に異常のない事を確認し、支援活動及び、垂れた電線による 2 次災害の防止に当たる。	

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。その他：現場に近づいた為、危険を予測し最徐行していたためすぐに停止できた。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

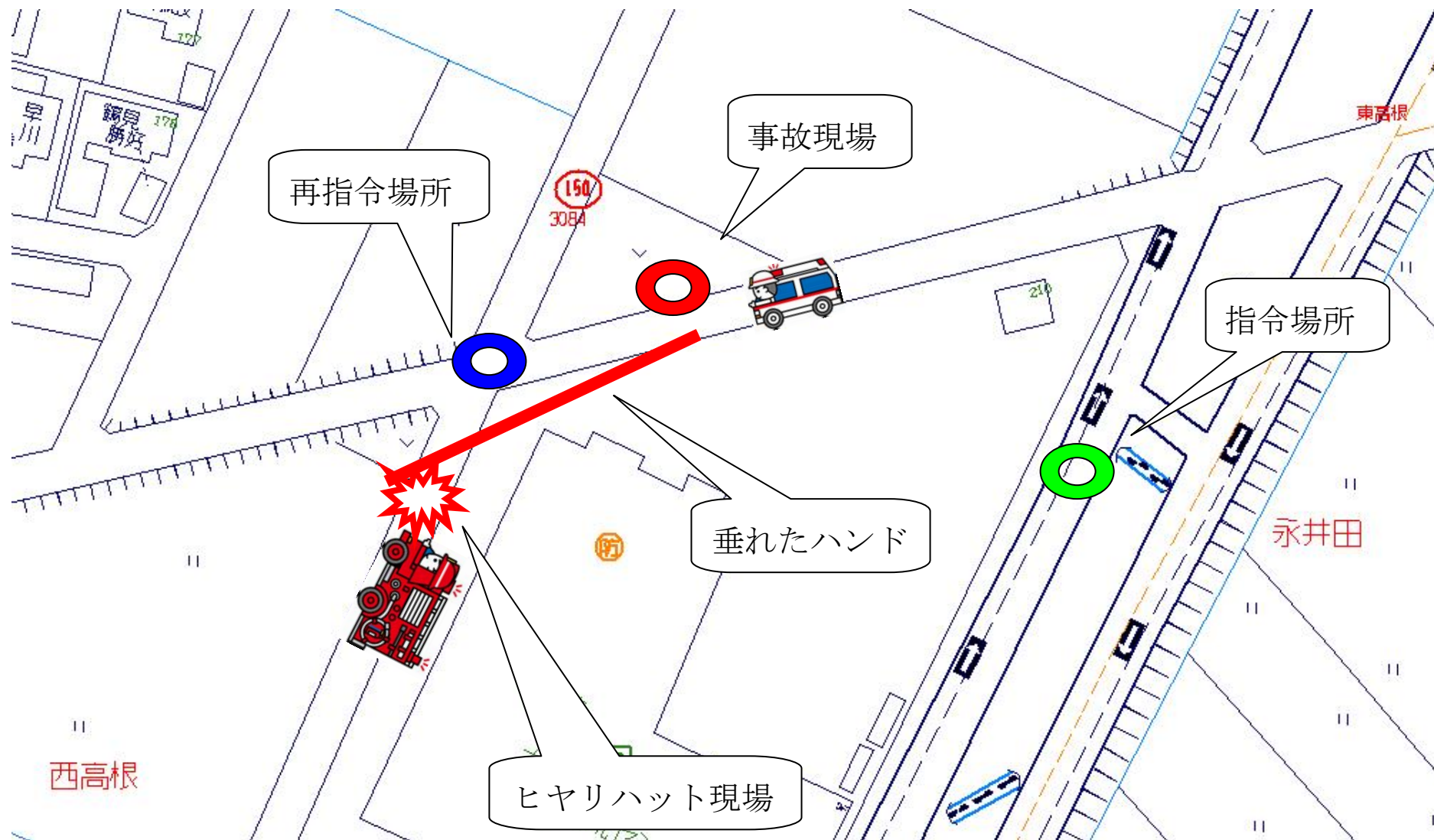
.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について



ヒヤリハット現場図面